

Vol.41 聴力検査ってどんな検査？

聴力検査とは

日常生活に必要な聴力

(低音と高音)の

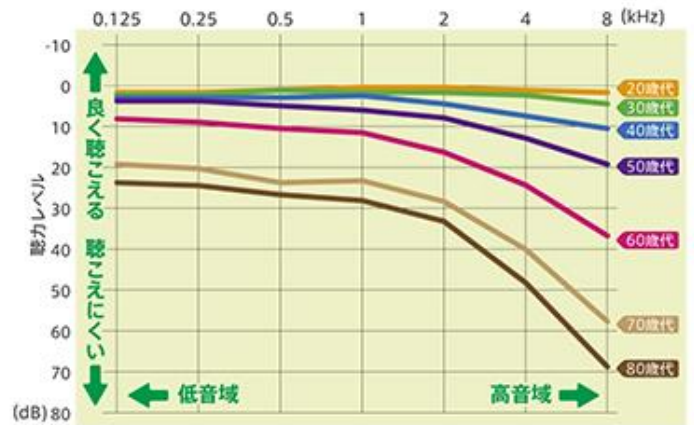
聞こえ方を調べています。



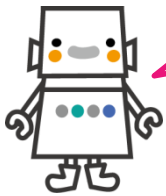
加齢による聴力の低下は40代から徐々に始まります。30dB以下が基準範囲、35dB以上を「所見あり

(聞こえていない)」としています。

文責：臨床検査グループ 小曳



引用) 日本耳鼻咽喉科学会より
<http://www.jibika.or.jp/owned/hwel/hearingloss/>



Hzとは何ですか？

参考文献) 人間ドック学会
<https://www.ningen-dock.jp/public/inspection/hearing>

Hzとは、音の高低です。当センターでは1000Hz (低音) と4000Hz (高音) を検査しています。dBとは、音の強さ (大きさ) で聞こえの程度を表します。

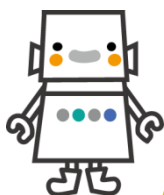
	所見なし	所見あり
1000Hz (低音)	~30dB	35dB以上
4000Hz (高音)	~30dB	35dB以上

*聞こえれば「所見なし」聞こえなければ「所見あり」と表記されます。



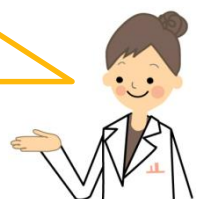
• 小鳥のさえずり約20dB • 日常会話50dB程度 • 電話の音70dB程度

加齢により、4000Hz (高音) の聴力は低下します。年齢によっては40dB程度聞こえていれば「所見あり」の場合でも「異常なし」と判断されることもあります。また、若い健康な人の聴力を「0dB」としているため、結果値「マイナス」の方はそれ以上によく聞こえているということで異常ではありません。



モスキート音って何ですか？

蚊の羽音のような高い音 (17000Hz前後) のためモスキート (蚊) 音と呼ばれています。20代前半までの若い方にはよく聞こえますが、それ以上の年代の方には聞こえにくいとされています。



聴力が低下するとみられる特徴

会話中聞き返すことが増える



電話の会話が聞き取りにくい



後ろから声をかけられると聞き取れないことがある



テレビを見ていると家族からうるさいと言われる



難聴の種類

難聴には、大きく分けて3つのタイプがあります。

- ①伝音性難聴：中耳炎や外耳炎などに障害が起きた難聴で、治療で治ることもある
- ②感音性難聴：内耳から聴神経、脳にかけて障害が起きた難聴
- ③混合性難聴：伝音性と感音性の両方にまたがる難聴

ヘッドフォン・イヤホン対策



大音量にする習慣がある人は改めましょう。
特に周囲の騒音が大きい所では大音量にしがちです。
聴力低下を食い止めるのには、重要な事です。
音量の上げ過ぎには注意しましょう。

聞こえに不都合を感じたら、まず耳鼻咽喉科を受診して医師に相談してみてください。



当センターには、保健指導担当の保健師、管理栄養士、健康運動指導士がいます。健診の際は、お気軽にご相談ください。